

『STUDY GUIDE』

2015 年度以降 大学院第 1 学年時入学者適用

(2019 年 3 月発行 冊子表紙桃色)

正 誤 ・ 追 録 表

- 「Ⅲ. 学生生活」以降のページは、最新年発行の『STUDY GUIDE』を参照してください。
- 最新のお知らせ・変更事項等は B-net に掲出しますので、定期的に確認してください。

2020 年 4 月 1 日現在

p,5 佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的(以下に差し替えてください)

佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的

佛教大学は、学則第 1 条に示す通り仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を目的とし、「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するために相応しい教育研究組織を設置しています。

学則第 1 条

「本学は学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基き、仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする」

仏教精神

本学が建学の理念としている仏教精神とは、仏教を開いたゴータマ・ブッダ（釈尊）と浄土宗を開いた法然上人とに共通する生き方と考え方を指します。釈尊は「私とは何か」「私はどう生きるか」そして「私は自分自身に何を期待できるのか」つまり私の生きる道＝人の生きる道を求めて修行し、その道を成就して、われわれに人として歩むべき道を説き示したのです。一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあって、生きることに苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみに喘ぐ人々の中で、大乘仏教に私の生きる道＝人の生きる道を求め、自己の愚かさを自覚し、念仏の道を体得し、すべての人が等しく導かれる道を説いたのです。ブッダによってはじめられ、法然上人によって受け継がれた生き様と考え方こそ、「転識得智」なのです。それは現実の生き方の中で、常に己自身のあり方をしっかりと見つめながら、学んできた知識を人生のさまざまな場において何を為すべきか判断する力、実行してゆく力、すなわち生きる力へと転換してゆける智慧を得ることなのです。この二人に共通する生き方こそが仏教精神に他なりません。この精神にのっとり、自らも生かされている社会において、他に幸せを分かち与え、他の苦をぬぐい去る慈悲のこころをもって、自らが生きていることを活かしてゆける人材の養成を目指します。

p,63 公欠の対象に「社会教育実習」を追加

p,63 学校感染症の種類(下線部の訂正・追加)

学校保健安全法施行規則第18条・19条に基づき、下表の学校感染症に罹患した場合は、医師の指示に従い静養に努めてください。

治癒後、医師の診断書等を学生支援課へ提出し、「欠席事由確認証（感染症）」を受けることで、公欠と同様の扱いとします。

但し第3種、その他の感染症に関しては、医師より登校禁止を指示された場合に限ります。

分類	感染症の種類
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、 <u>特定鳥インフルエンザ、指定感染症</u>
第2種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん（三日はしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎（はやり目）、急性出血性結膜炎、その他の感染症 [溶連菌感染症（しょうこう熱）、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑（りんご病）、ヘルパンギーナ（夏かぜ）、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、流行性嘔吐下痢症など]

p,66 課題研究枠内に【文学研究科 歴史学専攻 「高度職業人コース」】を追加

【文学研究科 歴史学専攻 「高度職業人コース」】

「課題研究」とは、大学院設置基準第16条第2項および佛教大学大学院学則第44条第2項に基づいて、「特定の課題についての研究の成果」と規定されており、修士論文に代わるものです。修士課程での学修・研究の成果として、修士論文と同様に、大学院担当教員による審査を経て、修了判定を受けます。

各自の専攻領域に関わるテーマを、指導教員と十分に協議して設定し、その指導の下で「課題研究」(分量は「課題研究の体裁」ページ参照)をまとめてください。

テーマとしては、たとえば

- ・ 専門分野における文献にかかわる調査・研究
- ・ 専門分野におけるフィールドワークによる調査・研究
- ・ 専門分野に関する教授法についての調査・研究
- ・ 専門分野における重要文献の注釈、翻訳、解題
- ・ 博物館・資料館等における展示等に関する調査・研究

などの多様なものが考えられます。

「課題研究」は、修士課程の修了要件としての「修士論文」に代わるものですが、「修士論文」のように独創的な研究と成果を求めるものではありません。修士課程での専攻分野に関する学修・研究の成果として、高度の専門性が要求される職業等に必要とされる能力を有することを立証するに足るものでなければなりません。

p,67 「②修士論文・課題研究の題目登録および変更」を以下に差し替え

②修士論文作成スケジュール

修士論文履修日程

	1年目	2年日以降
4月	上旬 新入生オリエンテーション 「研究指導計画書」提出 必要な科目の履修(~7月下旬)	~4/15 研究指導計画書の提出 必要な科目の履修(~7月下旬)
5月	中間報告・発表(時期は専攻による) 指導教員の決定	中間報告・発表(時期は専攻による) 5/31修士論文・課題研究の題目登録 届提出期限
6月		
7月		7/31修士論文・課題研究 提出期限 ※3年目以降の9月修了予定者
8月		下旬~ 口頭試問 ※3年目以降の9月修了予定者
9月	下旬 必要な科目の履修(~1月下旬)	下旬 必要な科目の履修(~1月下旬) 下旬 修了証書授与式 ※3年目以降の9月修了予定者
10月		10/31 論文題目変更届提出期限 ※3月修了予定者
11月		
12月		12/20 修士論文・課題研究提出期限 ※3月修了予定者
1月		
2月		上旬~中旬 口頭試問 ※3月修了予定者
3月		3/18 修了証書授与式 ※3月修了予定者

※詳細は、各専攻で定められたスケジュールにしたがってください。

※このスケジュールの他、指導教員の指導に基づく研究活動の他、先行研究や関連領域の調査研究・学会参加・論文投稿等にも継続的に取り組んでください。

p,72 以下を追加

③入学から修了までの基本スケジュール

学年	学生		指導教員
	授業科目の履修	博士論文の作成	
1	<ul style="list-style-type: none"> 必要な科目の履修 	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション時「研究指導計画書」提出 論文中間報告・発表 1月末日「研究経過報告書」提出 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員の決定 研究計画の立案指導 研究計画の了承 (研究、論文作成指導) 論文作成指導 次年度の研究計画の指導
2	<ul style="list-style-type: none"> 必要な科目の履修 	<ul style="list-style-type: none"> 4月15日「研究指導計画書」提出 論文中間報告・発表 学会で口頭発表 学術雑誌への投稿 1月末日「研究経過報告書」提出 	<ul style="list-style-type: none"> 学会での口頭発表を指導 学術雑誌(学会誌を含む)への投稿 「博士論文」の概要了承 次年度の研究計画の指導
3	<ul style="list-style-type: none"> 必要な科目の履修 	<ul style="list-style-type: none"> 4月15日「研究指導計画書」提出 「博士論文」執筆 論文中間報告・発表 11月30日「博士論文」の提出 1月下旬～2月中旬 口頭試問 	<ul style="list-style-type: none"> 学内外の研究発表の評価および批判に基づき、研究指導 「博士論文」提出了承 (研究科教授会に審査請求)

※本スケジュールは基本モデルです。特に2年次においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ、積極的な取り組みが望まれます。

p,90 以下の項目を修正

(誤) (2)「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。

(正) (2)「修士論文」または「課題研究」のどちらかを提出して、その審査に合格すること。

p,93 以下の項目を削除

(5)他専攻の科目を履修した場合は、関連科目とみなす。

以上